2025年度　　授業概要

科目名	言語発達障害学Ⅱ					授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15	回	時間数	30	時間　1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年　前期

【授業の目的・ねらい】
様々な障害特性に応じた検査を選定し、実施・記録・解釈ができる。
発達段階や障害特性に応じた支援方法を理解できる。

【実務者経験】
言語聴覚士としてこども発達サポートセンター、こどもクリニックなどで発達障害児の言語聴覚療法に従事経験。

【授業全体の内容の概要】
講義および実技指導により、検査手技および記録の作成を行う。
段階別・障害別支援プログラムについて理解を深める。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
言語発達障害の特性に応じた評価・指導・訓練のあり方について理解できる。
発達段階に合わせた指導について基本的知識と技術を身につける。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	言語発達障害に関連する各障害特性について理解できる	言語発達障害学第3版
2	言語発達検査の種類と概要について理解し説明できる	言語発達障害学第3版
3	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる①	言語発達障害学第3版
4	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる②	言語発達障害学第3版
5	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる③	言語発達障害学第3版
6	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる④	言語発達障害学第3版
7	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる⑤	言語発達障害学第3版
8	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる⑥	言語発達障害学第3版
9	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる⑦	言語発達障害学第3版
10	小児臨床でよく使用される検査について理解・実施・記録できる⑧	言語発達障害学第3版
11	検査結果の記録まとめ・解釈ができる①	言語発達障害学第3版
12	検査結果の記録まとめ・解釈ができる②	言語発達障害学第3版
13	発達段階に応じた指導について理解できる	言語発達障害学第3版
14	障害別指導について理解できる	言語発達障害学第3版
15	まとめ	言語発達障害学第3版
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
『標準言語聴覚障害学　言語発達障害学　第3版』医学書院
各検査マニュアル（配布）

【準備学習・時間外学習】
指定教科書の予習と、講義後の復習は毎回行うこと。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する。
試験は定期試験のみ実施し、60点以上の場合に科目を認定する。